

U.S. Indicators

発表日: 2024年4月24日(水)

米国成長鈍化、インフレ圧力低下を示唆(4月PMI速報)

～15カ月連続で拡大を示す水準維持も勢いは鈍化～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

24年4月のS&Pグローバル米国総合購買担当者指数(PMI)は、50.9(前月52.1)と前月比1.2%ポイント低下し、市場予想の52.0(筆者予想52.2)を下回った。4月総合PMIは、拡大縮小の分岐点である50を15カ月連続で上回ったものの、前月から低下し、同統計調査対象企業の活動や民間需要の拡大ペースの鈍化を示している。

製造業は、49.9(前月52.5)と前月比2.6%ポイント低下し、50を下回り、縮小に転じたことを示した。一方、サービス業は、50.9(前月51.7)と前月比0.8%ポイント低下し、拡大ペースの鈍化を示した。内外での人の移動の活発化による需要の強まりを背景に15カ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回っているが、拡大ペースが徐々に減速している。

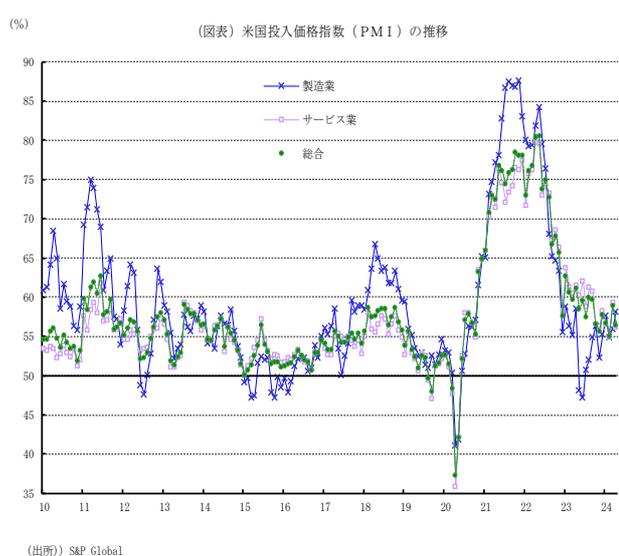
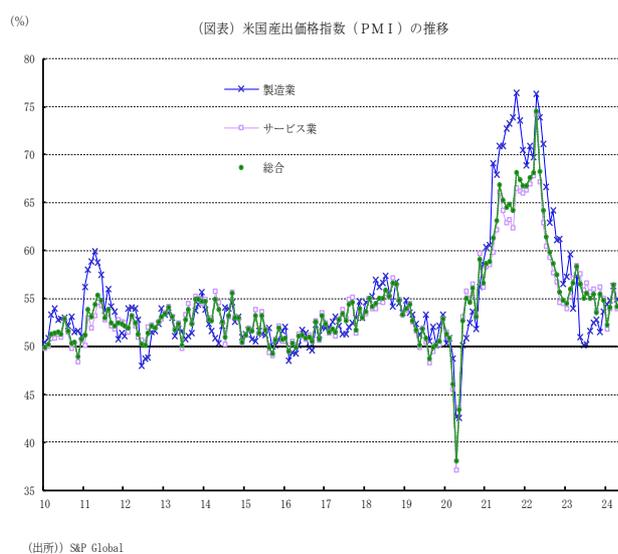
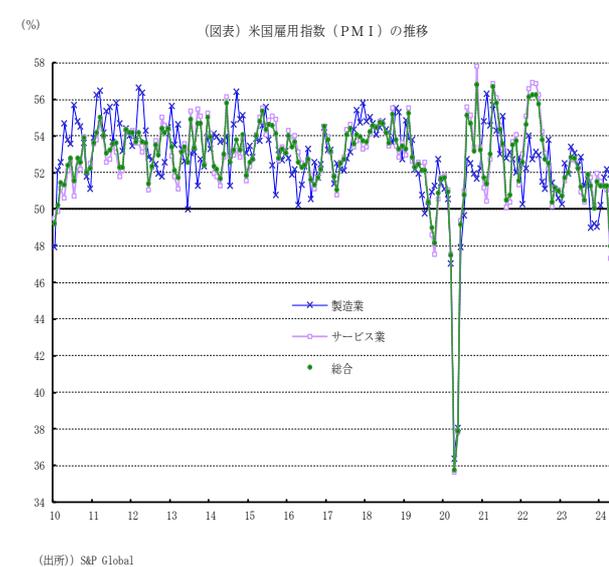
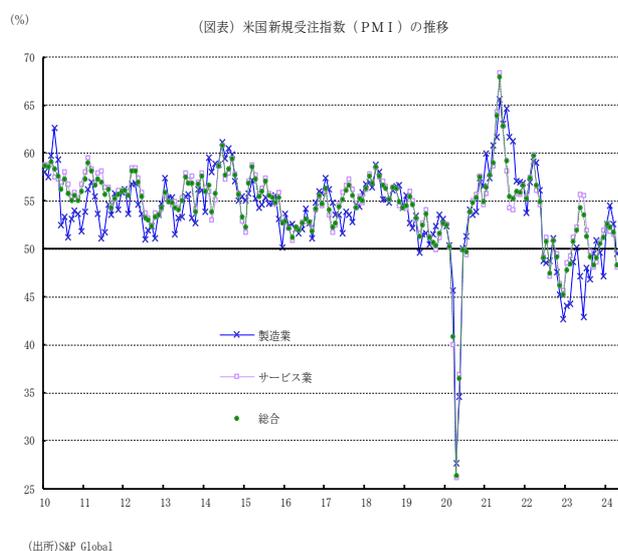
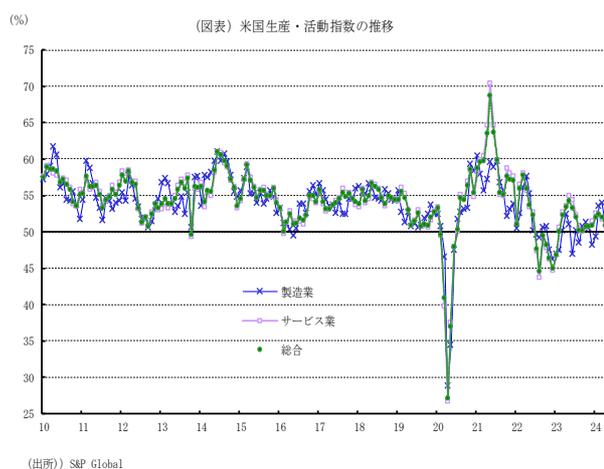
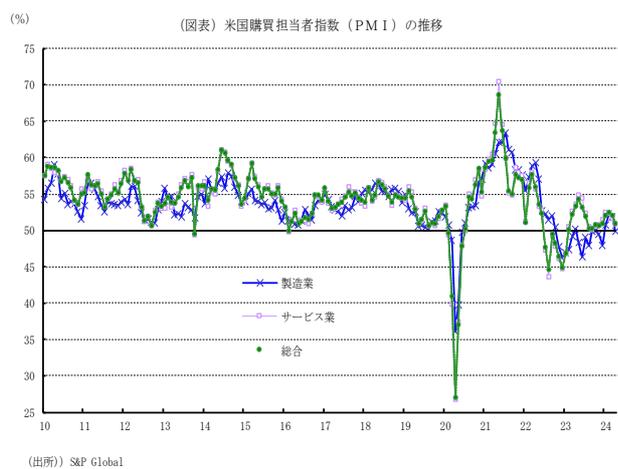
総合新規受注は、製造業、サービス業がともに50を下回る形で48.4(前月51.7)と低下し、需要の縮小を示した。また、総合雇用は48.0(前月51.2)と低下し、雇用の減少を示した。製造業が51.9(前月52.2)と小幅の低下にとどまった一方、サービス業がコスト削減、ミスマッチを背景に47.3(前月51.1)と雇用の減少を示す水準に大幅低下した。

インフレ関連では、総合投入価格指数が56.5(前月58.7)、総合産出価格指数が54.1(前月56.4)とともに低下し、インフレ圧力の緩和を示唆した。製造業では、投入価格指数が58.2(前月56.0)と上昇した一方、産出価格指数が54.9(前月56.3)と低下し、財価格の上昇ペース鈍化を示した。また、サービス業では、投入価格指数が56.2(前月59.2)、産出価格指数が54.0(前月56.4)とともに低下しており、サービス価格の上昇ペース鈍化を示唆した。

製造業では、新規受注が49.5(前月52.6)、生産が51.1(前月54.0)、在庫が46.7(前月48.4)、雇用が51.9(前月52.2)と低下した。寄与度では、新規受注が前月比▲0.93%ポイント、生産が前月比▲0.73%ポイント、入荷遅延が前月比▲0.14%ポイント、在庫が前月比▲0.09%ポイント、雇用が前月比▲0.06%ポイントの押し下げ寄与となった。

サービス業では、活動指数が50.9(前月51.7)と低下した。観光・余暇需要が強い一方、信用・金融状況の引き締め等による影響でサービス業の活動が鈍化した。また、新規受注が48.1(前月51.5)と50を下回り、需要の縮小を示した。ただし、「将来の活動指数」が65.7(前月67.5)と高い水準を維持しており、サービス関連企業は先行きに対して楽観的な見方を維持している。

総合PMIは、24年4月に50.9と1-3月期の52.2から低下し、4-6月期入り後の米民間需要の拡大ペース鈍化を示している。製造業が49.9(1-3月期51.6)と悪化したほか、サービス業が50.9(1-3月期52.2)と大幅に低下した。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。